

『この信仰は、あなたを救う！』

'21/06/20

聖書箇所:マルコの福音書 10章 46-52節(新約 p.88)

皆さんは、信仰をお持ちでしょうか？果たして、その信仰は、皆さんのことを救える信仰でしょうか？…あるいは、その信仰は皆さんのことを、どのように変えてくれたでしょうか？…この聖書は、すべてを造られた真の神様が、私たち人間に与えてくださった、「神のお言葉」です。この聖書は、「本物の信仰は、私たちのことを確実に救い…、私たちのことを大きく変えてくださる！」ということを教えてくれています。

命題:「バルテマイが持っていた信仰」について考えましょう！

今日、私たちは、マルコ伝 10章のみことばから、「バルテマイ」という人物が持っていた信仰について学んでいこうとしています。果たして、バルテマイは、どのような人物で…、それ以上に、彼は、どのような信仰を持っていたのでしょうか？…願わくは、今日、私たちがバルテマイの持っていた信仰について学ぶことで、まずは、私たちが自分自身の信仰について、今一度、吟味することができて…、今日、このメッセージを聞いてくださった皆さんが、ますます、感謝を持って、与えられた日々を神様の栄光のために生きていくことを期待します。

I・バルテマイの熱心さ！(46-48節)

どうぞ、まずは、今日のみことばであるマルコ伝 10章の内、46-48節に注目していきましょう。このみことばは、バルテマイの持っていた「熱心さ」について教えてくれています。まずは、そういったことを、一緒に確認していきましょう。今日のみことばの、46-48節には、このように記されています。

46 彼らはエリコに来た。イエスが、弟子たちや多くの群衆といっしょにエリコを出られると、テマイの子のバルテマイという盲人の物ごいが、道ばたにすわっていた。

47 ところが、ナザレのイエスだと聞くと、「ダビデの子のイエスさま。私をあわれんでください」と呼び始めた。

48 そこで、彼を黙らせようと、大ぜいでたしなめたが、彼はますます、「ダビデの子よ。私をあわれんでください」と叫び立てた。

●この時の状況

さて、先週の礼拝でも学んだように、この時、イエス様の一行は、エルサレムへ向かっておりました。…この後、エルサレムへ行くと、そこで、イエス様は、私たちのことを罪と、その裁きから救うため、あの十字架に磔にされ、その3日目によみがえされる！という預言を、私たちは先週に学びました…。

実は、この時、イエス様の一行がいた『エリコ』という町は、歴史上、大変有名な場所です…、古くは、ヨシヤ率いるイスラエルが、神様からの不思議な導きによって、その城壁が崩されたという、あのエリコの町のことです。今、前の画面に出ていますように、このエリコの町は、死海の北、約10kmのところにあつて…、エルサレムまでは、20-30kmほどの距離でありました。実は、このエリコの町には、古くから、枯れることの無い泉があつて、そのため、その周辺はオアシスのような存在となっていたそうです。

多分、皆さんが、よくご存知の、あのザアカイが居たのも、このエリコの町で、恐らくは、バルテマイが癒されたすぐ後で、イエス様はザアカイの所を訪問されたようですが、そのことは、ルカ伝にしか記されておられないので、今回、私たちが学ぶことはありません…。

さて、この時も、イエス様の周りには、多くの群衆がいたようです…。そのイエス様たちが、一旦、エリコの町を出られると、そこに、『バルテマイ』という盲人…、つまり、目の見えなかった人物が道端に座ってい

たと、このみことばは教えます。『物ごい』と言いますのは、もう、今の日本では、あまり見かけることがありませんが、「道端などに居て、たくさんの人たちの施しによって、生きていた人のこと」を言います。

●バルテマイが訴えた内容！

さて、今度は、そのバルテマイが訴えた「内容」について、観察していきましょう。道端に居たバルテマイのすぐ近くを、イエス様の一行が通られます。目の見えなかったバルテマイは、恐らく、それがイエス様とは分らなかったと思われます。…だから、誰かが、そのことをバルテマイに伝えたのでしょう…。すると、バルテマイは、大声で、47節、『ダビデの子のイエスさま！私をあわれんでください！』ということを叫びます。

しかし、大勢の者たちは、そのバルテマイのことを黙らせようとして、彼のことをたしなめようとしてますが、彼は、ますます、大きな声で、48節にあるように、『ダビデの子よ！私をあわれんでください！』ということを叫び続けたようです。

今日、まず、皆さんにぜひ分かってもらいたいのは、このバルテマイの「熱心さ」です。彼は、大勢の者たちから、「止めろ！黙らせなさい！」と言われたにも関わらず、イエス様に願うことを止めませんでした。…でも、今日のみことばの後半を読んでくださったら分かる通り、このすぐ後で、イエス様は、このバルテマイの目を癒してくださるのです…。そうでしょ？

多分、皆さんはご存知じゃないでしょうか？…例えば、イエス様は、ある時、自分の小さな娘が悪霊に憑かれていると言って、「その娘から、悪霊を追い出してほしい」ということを願った、カナン人の母親に対して、『ああ、あなたの信仰はりっぱです。…』(マタイ 15:28)とおっしゃられたことがあつたでしょ？…マルコ伝 7章に記されてある出来事です。

あの時のイエス様も、そうでした…。イエス様は、すぐに、その母親に対して、「分かりました。あなたの娘から悪霊を追い出してあげましょう…」とは言わずに、その母親の熱心さを明らかにするために、一見、意地悪にも見えるような態度を取られました。…でしょ？

実は、今回の状況も、それと似ています。…イエス様は、すべてのことをご存知で、しばらく、その状況を静観することで、このバルテマイが持っていた「熱心さ」というものを、明らかにしておられるのです。

どうか、信仰をお持ちの皆さん…。皆さんは、このような「熱心さ」というものを持っていらっしゃるでしょうか？…ひょっとしたら、私たち、すぐに諦めてしまつてはいないでしょうか？…イエス様も、すべてを御支配なさっておられる天の神様も、私たちが、真剣に願い続けることを期待しておられます。

例えば、イエス様は、山上の説教の途中で、こんなことを教えてくださいました…。『7 求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。8 だれであれ、求める者は受け、捜す者は見つけ出し、たたきなさい。9 あなたがたも、自分の子がパンを下さいと言うときに、だれが石を与えるでしょう。』(マタイ 7:7-9)って…。

⇒良いでしょうか？…ここで、イエス様は、「どんなことでも、私たちが願えば、その願いが叶う」ということを教えてくださっているのではありません。ここで、イエス様が教えてくださっていることは、信仰の成長のことであり…、あるいは、救いのことです。もしも、皆さんが、ご自分が救われることや、あるいは、自分の信仰が、もっとも成長していくことを真剣に願うなら…、いえ、真剣に願い続けられるなら、神様は、その祈りに応えてくださいます！…しかし、どちらかと言うと、多くの場合、問題は、私たちの方が、早くから諦めてしまつて、真剣に私たちが願い続けられないことです。途中で、諦めてしまうのです。…違います？

だから、ヤコブ書 4章のみことばは、こう教えてくれています、『2 …あなたがたのものにならないのは、あなたがたが願わないからです。3 願っても受けられないのは、自分の快樂のために使おうとして、悪い

動機で願うからです。』(ヤコブ 4:2c-3)って…。どうか、皆さん。様々なことを、いい加減に諦めてしまうのではなくて…。本当に価値あること…。神様に喜ばれることなどを真剣に追い求めてください！…例えば、自分自身の救い…。本当に、真の神はおられるのか？長い間、教会に通いつけているけど、救われない！真理が分からない！どうして、神は、私のことを…。あるいは、私の家族を救ってくださらないのか？どうか、諦めることなく、真剣に祈り続けて…。今以上に、全能なる神様のことを信頼して…。たった1度しかない人生を悔いの無いように歩んでいっていただきたいと思います。

II・バルテマイが持っていた 知識 ! (47-51 節)

どうぞ、今度は、このバルテマイが持っていた“知識”に注目していきたいと思います。どうぞ、今日のみことばの内、47-51 節にご注目ください。先程と少しかぶりますが、マルコ 10:47-51 には、このように記されています。

- 47 ところが、ナザレのイエスだと聞くと、「ダビデの子のイエスさま。私をあわれんでください」と叫び始めた。
48 そこで、彼を黙らせようと、大ぜいでたしなめたが、彼はますます、「ダビデの子よ。私をあわれんでください」と叫び立てた。
49 すると、イエスは立ち止まって、「あの人を呼んで来なさい」と言われた。そこで、彼らはその盲人を呼び、「心配しないでよい。さあ、立ちなさい。あなたをお呼びになっている」と言った。
50 すると、盲人は上着を脱ぎ捨て、すぐ立ち上がって、イエスのところに来た。
51 そこでイエスは、さらにこう言われた。「わたしに何をしてほしいのか。」すると、盲人は言った。「先生。目が見えるようになることです。」

●バルテマイが叫んだ、『ダビデの子』という言葉の意味？

どうぞ、今度は、ここ 47 節と 48 節で、バルテマイがイエス様に向かって繰り返し叫んだ、『ダビデの子』という言葉に注目してください。実は、この言葉があることで、このバルテマイが、イエス様のことをある程度は知っていたということが分かります。…と言いますのは、この『ダビデの子』という言い方は、「このお方が、約束の救い主、キリストであられる！」ということの意味したからです。

例えば、有名なみことばとして、使徒パウロは、ローマ書の最初に、こう書き記しています。『1 神の福音のために選び分けられ、使徒として召されたキリスト・イエスのしもべパウロ、2 ——この福音は、神がその預言者たちを通して、聖書において前から約束されたもので、3 御子に関することです。御子は、肉によればダビデの子孫として生まれ、4 聖い御霊によれば、死者の中からの復活により、大能によって公に神の御子として示された方、私たちの主イエス・キリストです。』(ローマ 1:1-4)

⇒皆さん、聞いてくださいました？…天の神様は、数々の預言者たちを通して、はるか昔から約束してくださっていた！と言うのです、約束の救い主に関して…。そうでしょ？…3 節に、何とありました？…「そのお方は、肉によれば…」、つまり、その救い主は、人間として…。特に、ダビデの家系にお生まれになる！という預言です。

それ以外でも、例えば、エゼキエル書 34:23-24 には、こう預言されています。『23 わたしは、彼らを牧するひとりの牧者、わたしのしもべダビデを起す。彼は彼らを養い、彼らの牧者となる。24 【主】であるわたしが彼らの神となり、わたしのしもべダビデはあなたがたの間で君主となる。【主】であるわたしがこう告げる。』って…。この『ダビデを起す』というのは、「あのダビデの家系から、あのダビデのような人物を、再び生まれさせる」という意味です。…そうして、実際にお生まれになったのが、あのイエス・キリストであります。…イエス様こそは、約束の救い主であられたのです！

●バルテマイが抱いていた 期待 !

このバルテマイが、一体いつ、イエス様のことを聞いたのか？…また、どのようにして、イエス様のことを信じる信仰を持つに至ったのか？…そういったことは、この聖書に書かれていないので分かりません。しかし、そういった信仰を与えてくださるのは、つい2週間前の礼拝で学んだように、究極的には、神様の御業です。…だから、神の御働きがあれば、その人は、たった1日で…。あるいは、たった1時間でもあれば、救われます。…そうでしょ？神様には、何一つ不可能は無いのです！

でも、このバルテマイの持っていた信仰が、本物であったという証拠が、彼が、イエス様に対して抱いていた“期待”が、どのようなものであったか？…ということを知ることで分かります。…では、このバルテマイは、イエス様に対して、どんなことを期待しました？

⇒バルテマイが、イエス様に願ったこと？…それは、大きく分けて、2つありました。…と言いましても、それらは言い方が違うだけで、内容は同じことなのですが…。1つは、イエス様が、「自分にあわれみをかけてくださること」です。そういったことは、今日のみことばの 47 節と 48 節を見れば、明らかです。…そうでしょ！

どうか、皆さん。ここでバルテマイは、イエス様に対して、何かの愚痴や不満をこぼしているのではない！ということを知ってください。…ひょっとしたら、このバルテマイは、イエス様に言えたかも知れませんが、「私は生まれてから、何も良いことが無かった…。私は目が見えないで、神様は不公平だ！」みたいな文句を、イエス様に言いませんでした…。

彼が言ったのは、「どうか、私を憐れんでください…」ということでありました。…良いですか？彼は、「私には、神様から癒されるだけの権利がある(とか)、私には、それだけの資格や価値がある！」なんてことは言いませんでした。彼は、ただ、イエス様が、自分のことを憐れんでくださることを願ったのです。

ついさっき、私が引用した、あのカナン人の母親…。彼女もまた、同じようなことをイエス様に願いましたでしょ？…どうぞ、今度は、その平行個所であるマタイ 15 章のみことばを紹介させてください。そこには、このように記されています。マタイ 15:22-28、『22 すると、その地方のカナン人の女が出て来て、叫び声をあげて言った。「主よ。ダビデの子よ。私をあわれんでください。娘が、ひどく悪霊に取りつかれているのです。」23 しかし、イエスは彼女に一言もお答えにならなかった。そこで、弟子たちはみもとに来て、「あの女を帰してやってください。叫びながらあとについて来るのです」と言ってイエスに願った。24 しかし、イエスは答えて、「わたしは、イスラエルの家の失われた羊以外のところには遣わされていません」と言われた。25 しかし、その女は来て、イエスの前にひれ伏して、「主よ。私をお助けください」と言った。26 すると、イエスは答えて、「子どもたちのパンを取り上げて、小犬に投げてやるのはよくないことですよ」と言われた。27 しかし、女は言った。「主よ。そのとおりです。ただ、小犬でも主人の食卓から落ちるパンくずはいただきます。」28 そのとき、イエスは彼女に答えて言われた。「ああ、あなたの信仰は素晴らしい。その願いどおりになるように。」すると、彼女の娘はその時から直った。』

⇒いかがです？…このカナン人の母親も、イエス様に対して、憐れみを願ったでしょ！…彼女もまた、イエス様に、こうは言いませんでした！「私こそは、娘を癒されて当然なのです！イエス様、あなたが神なら…。約束の救い主なら、私の娘を癒せるはずですよ！」って…。このカナン人の母親も、また、今日のみことばに出てくる、あのバルテマイも、非常に、謙虚でありました。…そうじゃありません？

どうしてか分かります？…それは、彼らが、イエス様こそが真の神であられる、ということを知っていて…。それに対して、自分たちが、その神様から良いものを与えられて当然だ！とは考えていなかったからです。そのように、本物の信仰は、簡単には、神様の前に傲慢になりません。…と言いますのは、真の神様と、その被造物である私たち人間との間には、決して、超えることができない“大きな違い”があるからです。

ここ日本におきましては、私たち人間が死んだ後、何か特別な力を持つようになって、まるで、私たち人間が死後、仏様とか、神様のような存在になり得る、というような信仰がありますが、神様からのお言葉である聖書は、決して、そうは教えません！…神は神！人間は人間！…そこには、私たちが決して超えられない…、天と地ほどの、決定的な違いがあるのです…。

Ⅲ・バルテマイに起こった 変化 ! (52 節)

じゃあ、最後に、今日のみことばの 52 節で、そのバルテマイの信仰ゆえに起こった、大きな“変化”について、今から見ていきましょう。どうぞ、今日のみことばの最後、52 節をご覧ください。そこには、こう記されています。

52 するとイエスは、彼に言われた。「さあ、行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのです。」すると、すぐさま彼は見えるようになり、イエスの行かれる所について行った。

●見えなかった目の いやし !

さあ、ここに記されてある通り、イエス様は、バルテマイの2つ目の願いに応じて、彼の目を“癒し”てくたさいました。イエス様には、どんなこともお出来になるのです！…でも、そういったことは、ここまで、マルコ伝のみことばを学んできましたら、そういったような癒しや奇蹟は何度も記されてありました。そうでしょ？

でもね、皆さん…。どうぞ、イエス様が、病気や問題を解決してくださったからと言って、彼らが皆、真理を知って救われたとは思わないでください。…確かに、このマルコ伝だけでなく、4つの福音書を見ますと、「このイエス様なら、私の病を癒してください！私の問題を解決してくださいに違いない！」というのを期待して、イエス様の所へ行行って、その問題を解決された者たちが数多くおります。

しかし、彼らの多くがそうであったように、彼らのイエス様に関する理解というものは、決して、十分ではありませんでした。…だから、彼らは、その病が癒されたかも知れませんが、じゃあ、彼らが救われたか？という、それは別問題です。…肉体の救いイコール、魂の救いでは無いのです！

ですから、今日、特に、皆さんに注目していただきたいのは、彼の信仰が起こした2つの変化です…。先程も言いましたように、イエス様は、バルテマイの目を癒して、見えるようにしてくださいました。でも、皆さん、ご存知でした？…実は、この聖書のみことばは、私たち人間が、かつては、真理が見えないような、「霊的な盲目であった！」ということを教えてください。

どうぞ、皆さん。できましたら、ヨハネ伝 9 章のみことばをお開きくださいますか？(前の画面にも出てきますが)…ここで、イエス様は、生まれつきの盲人の目を癒して、見えるようにしてくださいました。…しかし、そのことを一から話すと、長くなってしまいますので、どうか、短く説明させていただきます。イエス様が、生まれつきの盲人の目を癒されたというので、それを知った者たちは大騒ぎしました。…しかも、イエス様が、その盲人の目を癒されたのは、どんな労働も禁じられていた安息日であったから、それは、二重の驚きでした。

何と、当時の宗教家であったパリサイ人たちは、救い主として来てくださったイエス様が、生まれつきの盲人の目を癒して、見えるようにしてくださいましたのに…、彼らパリサイ人たちは、イエス様のことをねたんで…、何とかして、イエス様のことを失脚させようとたくらんでいたのです…。そういったこともあって、当時、イエス様の奇蹟を見た者たちの中に、分裂が起こります。ある者は、イエス様のことを、安息日を破った罪人だと言い…、また、別のある者たちは、イエス様のことを神から遣わされた預言者だと言います。

どうぞ、ヨハネ 9:32 以降をご覧ください。『32 盲目に生まれつきの目をあけた者があるなどは、昔から聞いたこともありません。 33 もしあの方が神から出ておられるのでなかったら、何もできないはず

です。』34 彼らは答えて言った。「おまえは全く罪の中に生まれていながら、私たちを教えるのか。」そして、彼を外に追い出した。35 イエスは、彼らが彼を追放したことを聞き、彼を見つけ出して言われた。「あなたは人の子を信じますか。」36 その人は答えた。「主よ。その方はどなたでしょうか。私がおの方を信じることができそうです。」37 イエスは彼に言われた。「あなたはその方を見たのです。あなたと話しているのがそれです。」38 彼は言った。「主よ。私は信じます。」そして彼はイエスを拝した。39 そこで、イエスは言われた。「わたしはさばきのためにこの世に来ました。それは、目の見えない者が見えるようになり、見える者が盲目となるためです。」40 パリサイ人の中でイエスとともにいた人々が、このことを聞いて、イエスに言った。「私たちも盲目なのですか。」41 イエスは彼らに言われた。「もしあなたがたが盲目であったなら、あなたがたに罪はなかったでしょう。しかし、あなたがたは今、『私たちが目が見える』と言っています。あなたがたの罪は残るのです。』(ヨハネ 9:32-41)

⇒いかがです？皆さん、分かってくださいますか？…目を癒された、かつて盲人だった人物は、イエス様のことを、「あのお方は、神から遣わされたお方に違いない…」と考えます。しかし、それを聞いたパリサイ人たちは、その盲人だった人物を追放してしまいます…。しかし、それを聞いたイエス様は、その盲人だった者に、こう尋ねます、「あなたは、人の子、つまり、キリストを信じますか？…あなたと話している、わたしこそがキリストである！」って…。

すると、その盲人だった者は、38 節、『主よ。私は信じます。』と言って、『彼はイエスを拝した…』とあります。つまり、彼は、イエス様のことを神として認め、礼拝したのです！…そこで、イエス様は、こうおっしゃいます。39 節、『わたしはさばきのためにこの世に来ました。それは、目の見えない者が見えるようになり、見える者が盲目となるためです。』って…。すると、それを聞いたパリサイ人たちは、「私たちが盲目なのですか？」とイエス様に尋ねます。そうして、その質問に対して、イエス様は、こう返されます。41 節、『もしあなたがたが盲目であったなら、あなたがたに罪はなかったでしょう。しかし、あなたがたは今、『私たちが目が見える』と言っています。あなたがたの罪は残る…』って…。

ここで、イエス様は何をおっしゃりたかったのでしょうか？…それは、パリサイ人たちの罪です！彼らパリサイ人たちが、民衆たちに神の戒めである、律法を教える立場にいながら、そのパリサイ人たちが、肝心の神様の教えを正しく理解できていなかったのです。…そうでしょ？…しかも、彼らパリサイ人たちは、「自分たちこそは、神の真理を理解できている！」と言って、決して、譲ろうとはしませんでした。イエス様は、「それこそが、あなたがたの問題であり、罪である…」とおっしゃるのです。…つまり、それほど、当時は、大勢の者たちが、神の教えを正しく理解できていなかったのです…。

じゃあ、皆さん。私たちは、いかがでしょう？…私たちは、神様のみことばを“正しく”理解できているでしょうか？…いいえ。この地上で、神様のみことばを完全に理解できている人間など1人もおりません。…だから、私たちは皆、お互いに、へりくだって…、自分たちの理解が、本当に正しいかどうかを、しっかりと検証していかないといけないのです！…そうでしょ！

まだ、イエス様をお信じになっておられない皆さん…。果たして、あなたは、間違っていないでしょうか？あなたは、私たち人間が死んで後、特別な存在(=仏様)に変わるとっておられますか？…それとも、私たちの住んでいるこの世界が、神様という造り主無しに、偶然か何かで、今のよう素晴らしい状態に、“たまたま”、出来上がったのだと、本当に思っておられますか？…じゃあ、この聖書に記されてある、様々な教えや預言は皆、すべて嘘っぱちなのでしょうか？

イエス様は、おっしゃいます、「私たち人間は皆、霊的に盲目である…。彼らに、真理は見えていない…」って…。じゃあ、一体どうすれば、私たちの霊的な目が開かれ…、様々な真理を見ることができのでしょうか？…それができるのは、神様だけです。だから、私たちは、全能なる神様に祈りつつ…、聖書のみことばを学んでいくのです。

● イエス様によって変えられた後の、バルテマイの 願い !

どうぞ、もう1度、今日のみことばに戻っていただきまして…、52 節の最後の部分に注目してください。…イエス様によって、目が癒された後のバルテマイは、どんな風に変えられました？⇒52 節の最後には、こう記されてあります、『彼は…イエスの行かれる所について行った。』って…。良いですか、皆さん？このバルテマイは、イエス様に出会って…、そのイエス様に変えられて…、そうして、そのイエス様に従っていった！とこのみことばは教えるのです。

一体どうして、その目を癒されたバルテマイは、イエス様について行ったのでしょうか？…救われるためでしょうか？…いいえ！違います！…と言いますのは、ここ 52 節のみことばをご覧くださいと、イエス様は、その盲人だった人物に対して、こうおっしゃられました、『さあ、行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのです。』って…。ここで、イエス様がおっしゃられた、『あなたの信仰があなたを救った…』という表現には、「救う」という動詞(σώζω)の「完了形」が使われてあります。つまり、この時、イエス様は彼に、「もう、あなたは救われましたよ！」という趣旨のことを言われたのです。だから、彼は、自分が救われる“ために”、イエス様について行ったのではありません…。

実は、ここ 52 節のみことばを観察してみると、ここで、イエス様がおっしゃられた『さあ、行きなさい！』という部分ですが、ここで、「行きなさい」と訳されてある言葉(ὑπάγω)は、「徐々に離れて行く、引き下がる、(場合によっては「死ぬ」)…」というイメージの言葉が命令形で記されてあります。…実は、イエス様は、ここで、「もう、下がって良い…」そんなニュアンスで、このバルテマイに、自由を与えられたのです。…なのに、彼は、その自由を使って？…つまり、彼自身の選択で、イエス様について行く！ということを選んだのです。…でも、皆さん、これこそが、本当に救われた者の選択じゃありません？

どうぞ、皆さん。もし、聖書をお持ちでしたら、ここマルコ 10:51 の、欄外にある脚注を見てくださいますか？…そこをご覧くださいますと、小さな字で、何と説明されてあります？…<直訳、「私の先生」>と書かれてありますでしょ？

⇒実は、ここ 51 節で、この盲人は、イエス様に対して、「私の先生！」と言ったのです！…しかも、ここで、「先生」と訳されてある言葉(Ραββουνι)は少々特殊で、当時、ユダヤ教の教師を指した「ラビ」という言葉を“より強調した形”が使われてあります。…つまり、この時、バルテマイは、イエス様のことを、「先生」と呼びつつ…、先生以上の存在であったと認めていたのです。

…だから、彼は、自分の目が癒されて…、自由の身になったにも関わらず、自分自身の選択でもって、このイエス様に従っていくことを選択したのです。ここ 52 節の最後、『(彼は)イエスの行かれる所について行った。』とありますが、この『ついて行った…』という動詞の時制は、ギリシャ語の「未完了過去」という時制が使われてあります。これは、「ある動作の開始」を教えてくださいます。つまり、この時以降、このバルテマイは、自分のことを救ってくださったイエス様について行った！ということ、今日のみことばは教えてくれているのです。

時々、イエス様を信じた後も、「私の人生は、私だけのものです！だから、私は、聖書のみことばには従いたくありません！私は、これまで通り、私の好きなように生きていきます！」と言われるクリスチャンたちがおられます。しかし、果たして、そのような信仰を、聖書のみことばは教えてくれているのでしょうか？…いいえ、聖書のみことばは、「人を救うことができる、本物の信仰には、必ず、行ないが伴う！変化がある！」ということを教えてくれているのではありません？

ヤコブ書 2 章のみことばは、こう教えます、『14 私の兄弟たち。だれかが自分には信仰があると云って、その人に行いがないなら、何の役に立ちましょう。そのような信仰がその人を救うことができるでしょう

か。15 もし、兄弟また姉妹のだれかが、着る物がなく、また、毎日の食べ物にもこと欠いているようなときに、16 あなたがたのうちだれかが、その人たちに、「安心して行きなさい。暖かになり、十分に食べなさい」と言っても、もしからだに必要な物を与えないなら、何の役に立つでしょう。17 それと同じように、信仰も、もし行いがなかったなら、それだけでは、死んだものです。』(ヤコブ 2:14-17) って…。

⇒今日、私たちが学んだように、人を救うことができる本物の信仰には、必ず、大きな変化が伴います！イエス様を信じて救われたその人は、もう、イエス様を信じる前と何ら変わらない人生を歩いていくことはできないのです！…と言いますのは、神様が、その人のことを大きく変えてくださったから…。そうでしょ！…イヨハネ 3 章のみことばによりますと、かつて、救われる前の私たちは、悪魔の策略にはまっていた「悪魔の子ども」でありました。それが、イエス様を信じる信仰によって、「神の子ども」とされたのです！…なのに、救われる前と何ら変わらない生き方…、救われる前と全く同じ価値観、全く同じ目標を持ち続けていって、本当に可能なのでしょうか？

<励ましの言葉>

今日は、ある意味、非常に厳しいことを教えられました…。どうか、このメッセージを聞いてくださった皆さん…。皆さんが、こうやって、教会に通ったり、あるいは、熱心に、聖書のみことばを学んだりして下さっているのは、そういった行ないによって救われるためでしょうか？…確かに、私たちが救われるために、聖書のみことばを学ぶことは必要です。しかし、イエス様を信じて救われた者たちは皆、救われるために、教会で通ったり、聖書を学んだり、献金したりしているのではありません。それらは皆、救われた者たちの“自発的な行動”であり…、「こんな罪人の私を救ってくださった」ということの感謝のしるしであります。…と言いますのは、一点の曇りや汚れのない…、完全に正しい御方である神様の前には、私たちの如何なる行動も無意味だからです！

そういったことが分らないと、私たちも、少し前に学んだ、あの金持ちの青年役人やパリサイ人たちと同じ過ちに陥ってしまいます。私たち人間は、如何なる行ないや厳しい修行…、あるいは、たくさん捧げ物を捧げても…、あるいは、この地上のどんな宗教を信じたところで、決して、救われ得ないのです！救いとは、ただ、神様からの一方的な恵みであり…、神様からの憐れみによってのみ得られるものです。だから、私たちは皆、この神様の前にへりくだって…、この神様に憐れみを請う以外に道は無いのです…。実は、そういったことを、今日学んだバルテマイは、実践したのではないのでしょうか？

どうか、今日、まだ、イエス様を信じる信仰を持っておられない皆さんには、1日も早く、このイエス様を信じて、このバルテマイのように、新しい人生を送っていただきたいとします。そのために必要なのは、今一度、このみことばの前に、へりくだって…、神様のみことばを受け入れることであり…、自分の罪を認めて、この神様に救いを…、憐れみを請うてくださることです。それ以外に、あなたが救われて…、新しい人生を踏み出していくことはできません。

それと、クリスチャンの皆さん…。あなたは、この神様への感謝をもって、その感謝を捧げるために、1日1日を生きておられますか？…神様が願っておられるのは、皆さんが「はい！」という言葉の口にする以上に、皆さんが日々の行ないをもって、その感謝を現わしていかれることです。どうか、今週1週間もまた、ますます、神様をさがめ…、神様の栄光を現わすような歩みをなしていかけてください。…最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。